

# 国際武道錬成大会

虚心流居合剣法宗家

範士八段

山本

楠城

平成二十八年四月二十九日の第五回世界武徳祭・第五十四回全国武徳祭に引き続いて、翌三十日国際部からの参加者、二十か国約四五〇人による国際武道錬成大会が行われました。

第五回世界武徳祭・第五十四回全国武徳祭は、エリザベス英女王、オバマ米大統領をはじめ、各国要人からの祝福メッセージを受けるのみならず、三笠宮の彬子女王殿下のご臨席を賜るといふ破格の栄誉にあずかり、盛大かつ肅々と行われましたが、その有終の美を飾るにふさわしく、三十日の国際部による錬成大会では、厳肅な中に熱気と気迫にあふれる演武が多く繰り広げられました。

国歌演奏、武徳会国際部ゆかりの先師の遺影への黙禱、感動的な国旗献上式、肅々と行われる祓いの儀に続いて、合気道、柔術、柔道、居合道、空手道、古武道と、さまざまな武種の演武が、日頃の武技の鍛錬とさらに国際部武道講習会の成果を彷彿させるがごとく繰り広げられました。

各武種において、なかには足運び、腰の座り、目の配り等、武術修練者として、相当の進歩を見せている人がいたのには感心させられま

した。

また、この大会で、特に感銘を受け考えさせられたのは、訪日前に急逝されたフランス国デマユガ範士のための顕彰会として行われた国旗献上式でありました。

荘厳な調べとともに式は肅々と行われ、氏の遺影とともに氏の憧憬される武道の総本山を訪れるべく訪日されたご令嬢が体を震わせながら、フランス国旗を受け取られるとき、武人に対する畏敬の念と尊厳、大日本武徳会の氏への限りなき哀悼の意が会場に満ちたのでした。

西欧の市民主義・個人主義は古くからの歴史的伝統に支えられ、「私」の尊重とともに「公」を大切にします。ひるがえって昨今の日本にはこの市民主義・個人主義を曲解し、「私」のみを尊重し、「公」軽視「伝統」無視のきらいがあります。

日本における良き歴史的伝統を支えるものは伝統的武道文化であり、これによって培われる武徳であるが、これはまた人類・世界に共通のものでありましょう。

そもそも今回の大会へは桑原副総裁、濱田代表理事、本部理事をはじめとして並々ならぬ気迫で取り組んでくれましたが、その有終の美を飾る国際武道錬成大会がかくも、厳肅、整然として成功裡に行われたことに感銘を受けました。

諸先生方、ありがとうございます。大日本武徳会さらには国際部の益々の発展を祈念いたします。